

「らしき」輝く附属小



第15号 令和7年 7月17日(木) 校長 森内 秀学

命の選択～出張授業：国境なき医師団～

命は大切です。誰の命でも平等です。頭では分かっているつもりです。でも、こう尋ねられたら、どう答えるでしょうか。

国が治める地域の農家で家族と平和に暮らしていた12歳の少年Aと、反政府側の貧しい村に生まれ育ち、弟と妹の世話をしながら兵士として育てられた12歳の少年Bが同じ伝染病にかかって、国境なき医師団の病院の前で倒れていました。治療薬は一つしかありません。あなたが国境なき医師団のお医者さんなら、どうしますか？



7/15(火)は、5,6年生を対象にした、「国境なき医師団」による出張授業が本校集会室で行われました。講師は、国境なき医師団の一人で、産婦人科医の李理華医師(左)。世界で起きている命の危機や活動の紹介をしてくださいと、子どもたちに上の問いを出されました。非常に難しい問いですよね。シミュレーションとはいえ、命の選択を迫られた子どもたちは、真剣に議論していました(下)。

問いに対する李医師の答えは、「一人でも多くの命を助けるのが役割なので、

『助けられそうな方を助ける』でした。現場でもそんな場面がたくさんあるのだそうです。そして、現場でも、命の選択をするにあたって、子どもたちと同じように医師団みんなで何度も議論をし、処置した後も、それでよかったのか何度も振り返るのだそうです。その、繰り返し振り返る中で研ぎ澄まされていく選択眼は、命を救う現場で、本当に役に立つとおっしゃっていました。



本校の教育目標は、「適切な自己選択・自己決定で、よりよく自己実現できる子どもの育成」です。選択眼を磨き、自己実現できた子どもたちは、将来、その力を、人の命を救うために使うかもしれませんね。KTNのテレビ放映と長崎新聞への掲載もお楽しみに。

総括～1学期前期～

認め合い、学び合う中で、一人一人が自分らしさを見つけ、磨き、発揮していく、「らしき輝く附属小」を目指して取り組んだ1学期前期。いかがでしたか。議論する力、発表しようとする意欲は非常に高く、素晴らしいものがありました。

しかし、あいさつやマナー、礼儀、根気強さなど、自律にかかわる面は、その日その時の気分で大きく違うため、不十分だと感じています。自分をコントロールする力は、学校以外の場所でも十分身に付きます。夏休み中の成長に、大いに期待しています。